

# 久之浜 防災緑地づくり 8号

かわら版

平成26年7月10日

久之浜防災緑地「緑地育成活用のしくみづくり」

## 6/15 第8回 防災緑地づくり会議の報告

久之浜らしい森づくり ～住民が楽しく使いこなすために

### 第1部 植樹体験 12:30～ 秋葉神社前

神奈川県横浜市から5人の小学生と2人の先生を迎え、地元の有志とともに防災緑地への試験植樹を実施しました。これは公益財団法人日本環境協会による「プロジェクトD」という取り組みの一環で、全国の子どもたちが里親になり、被災地のドングリを育て被災地の豊かな生態系を育むための支援活動です。

3年前にNPO法人いわきの森に親しむ会がいわき市内で採取したドングリを、横浜市立永田台小学校の子どもたちが育て、その苗を植えに来てくれました。子どもたちは「大事に育てた苗が久之浜でもすくすく育ってほしい。大きくなったらまた訪れたいです。」と口々に話していました。



上・横浜市永田台小の代表に商工会青年部から記念品贈呈



県と地元代表に苗の贈呈



### 第2部 話し合い 14:00～ 久之浜・大久支所 (20名参加)

最初に5/31の「現地見学会」と6/1の「きらきら広場」の報告があり、続いて全戸配布中の防災緑地利活用に関するアンケートの中間報告がありました。

その後、これまで出されたさまざまな緑地の活用案を整理しながら、具体的にどこをどのように使うか、そのためにはどんな植栽や施設整備が適切かを話し合いました。

## 第9回 久之浜地区防災緑地づくり会議

～防災緑地の具体的な地域活動から植栽計画を考えるパート2～

8月10日(日) 14:00～16:45

場所：久之浜・大久支所

これまでいただいたご意見を踏まえた、久之浜防災緑地植栽ゾーニング(案)と維持管理プラン(案)を県から提示し、皆様にご確認いただきます。



# 第8回 防災緑地づくり会議 話し合いのまとめ1. 場所について

それぞれの場所の活用イメージをまとめながら、設計への要望を整理していきました。

**4号、2号緑地** 日常的にはスポーツ広場で、イベントなどで大勢が集まる多目的広場としても使いたい

- ・日常的にはグランドゴルフや軽スポーツ等に利用し、大きなイベント時の臨時駐車場にも使いたい。
- ・多目的に使うので、舗装などせず土のままよい。
- ・小さい子の遊び場としては、目が届かないので危険。

**3号、4号緑地** 水辺の創出は難しい

- ・(県) 津波防災機能を確保するため、親水護岸は作らない。

広場の土手に桜を植えたい ●●●●

- ・木陰をつくり花見もできるように、桜を植えたい。桜の名所、花のトンネルになるとよい。
- ・まちからも見えるよう堤の上のほうに植えたいが、住宅側(○○○)は落ち葉の処理が心配なので川側の斜面だけにしたい。



**1号公園周辺** \*1号公園は市の事業人が集まるにぎわいの広場にしたい

- ・まちや商業施設に近く、多世代の集う場として、年中行事やライブなど、多目的に利用できる広場にしたい。
- ・まわりの防災緑地も合わせて、小さい子どもや親子連れでの遊び場になるとよい。まちから見えるので安心できる。
- ・人が集まるところにはトイレが必要だが、管理上の問題点もある。

→(県、市) 今はトイレの計画はないため、イベントなどの際には仮設トイレで対応してほしい。

3ページの模型写真の目線

5号緑地に遠くから来る住民に配慮して、このあたりに無料駐車場が欲しい。

まちの入り口に当たる場所には、シンボルとなる木を植えたり花壇で飾りたい。

**5号緑地** 海や花などを楽しむ散策・憩いの場として整備できるとよい

- ・海を感じたい。海辺に下りたい。いざという時に登れる道が必要。
- ⇒(県) 約50mごとに砂浜に下りる階段(◀印)。スロープも1カ所ある。
- ・散策などの途中、休息の場としてベンチなどが欲しい。
- ・住宅地に接している部分は、花木を植えたい。人の家のあるようなところは手をかけて、人のいないところはあまり手をかけないでよい。

## 話し合いのまとめ 2. 管理運営について

前回までに提案として出されたことを、現実的な管理・運営の面から検討しました。いざとなるとむずかしい事ばかりですが、この段階で決めなくてもいいことは、もっとじっくり考えようという意見も出ました。



### 広場的な場所の管理について

- ・2、4号緑地をスポーツ広場のようを使うのであれば、使う団体が協力して管理すればよい。

### トイレ、ベンチの設置について

- ・人が集まる所、子どもが遊ぶ所などにはトイレは必要だが、ホームレスの問題もあり管理は大変。商業地のトイレを借りるなど工夫したい。

### 子どもの遊び場について

- ・防災緑地内に子どもが遊んだり自然体験のできる大規模な水辺を作るのは難しいので、小久川の防災緑地より上流部を利用して本当の自然にふれる方がよいのではないかと。
- ・ここらは少し掘れば水が湧くので、ガチャポン井戸などをつくれなにか。
- ・遊具を置くと、管理の問題がある。子どもの遊びが生まれるような土の山や生き物のいる環境、材木置き場などが自然な形であればよいのでは。



#### 【専門家のコメント】

廣瀬先生：計画は長い目でみて策定していく必要があります。そして、久之浜では東日本大震災を挟んで生物多様性の観点から見て先進的な取り組みができています。それが固有性となり、私などはその徹底によって外部の方々に関心を持っていただける地区にできるのではないかと考えます。それゆえ、コンセプトがぶれないように話し合いを続けていきたいと思えます。

根本先生：一旦植えてしまうと樹種は変えられないので、急いで決めないでじっくり考えて決めた方がよいと思えます。久之浜にはアジサイの名所などもあるので、他の事例なども参考にしながら話し合いをしていきたいと思えます。

木田先生：試験植栽への参加者も多く、地元に関心の高さにうれしく思えます。樹種の話についてはぜひご意見を頂ければと思えます。

### \*拠点づくりについて

前回までに「活動や遊びの拠点となる施設が欲しい」という意見が出ましたが、今回これについては検討できませんでした。



### \*防災緑地模型

(写真の場所は2ページ参照)

当日は模型も活用し、理解を深めながら話し合いました。

### 手づくり花壇、花木について

- ・花壇は、担い手、資金の問題が難しい。高齢化も進んでおり、ボランティアだけでできるか難しいと思う。
- ・住宅地側は花木を植えてはどうか？
- ・住宅側、緑地の入り口など、場所をしばって花壇をしつらえたり花木を植えていくのがよいのでは。
- ・花壇等をやりたい人やグループを募集して自由にやってもらってはどうか。

### 特産品栽培などでの活用について

- ・生産性のある果樹園などは、管理組織のできていない今は考えられない。
- ・楽しんでハマナスの実をジャムにするくらいなら、できるかもしれない。

### どんな植生を目指すか、何を植えるかについて

- ・この環境で自生できる草花なら、手がかからないのでは。たとえば、久之浜といえばハマエンドウ。昔からの自然植生に統一したほうがよいのでは。
- ・防災緑地全体がビオトープという考え方もできる。自然に生えてくるのを“待つ”ことが良い。ただし、外来種は除いていく必要がある。

# バスで緑地復元の現場見学に行きました

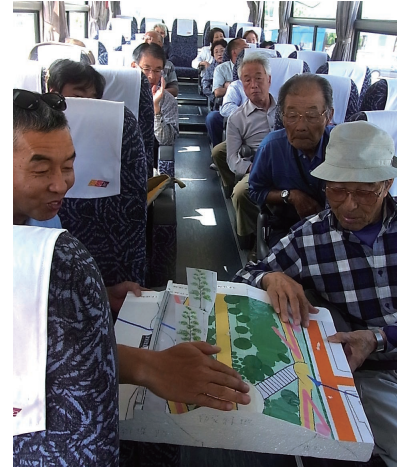
～福島県沿岸北部現地見学会の報告（概要）～



平成26年5月31日、総勢47名（住民の方32名）が2台のバスに分乗し、南相馬方面に見学会に出かけました。以下は大まかな行程です。

- 6:30 久ノ浜駅出発（バスの中で説明等）
- 10:00 有限会社上原樹苗見学（30分）南相馬市
- 10:50 南相馬市北海老地区海岸防災林（車中から）
- 13:30 松川浦 海岸防災林の再生事業見学（1時間）相馬市
- 18:30 久ノ浜駅到着・解散

車中では、久之浜防災緑地についてのおさらいをしたり、車窓から他地区の海岸防災林の植樹の様子を見学しました。



## 見学先1（有限会社）上原樹苗

久之浜に植える予定のクロマツの苗を育成している有限会社上原樹苗の高田部長に、マツやその他の苗木の圃場（ほじょう）を案内していただきました。

震災前、浜のほうにあった会社が、すべて流されて、3年かけて再建しました。この圃場の広さは、全部でだいたい八町分くらいあります。

クロマツ、アカマツの苗は全部で40万本育てています。

植林用のマツの苗は、写真のように出荷します。種をまいて2、3年たち、活着しやすくなるまで、コンテナで育てます。根がまっすぐ伸びるように改良された、細長い形のマルチキャビティーコンテナを使用しています。

畑では、多くの苗を種から育てており、落葉広葉樹に関しては150万本程度です。



植えてから3年経った苗です。一本一本育ち方が違うので、同じ年齢でも大きさはまちまちです。



スプリンクラーで水を撒き、管理しています。水は蒸散しないよう夜間に撒きます。



出荷直前の苗です。



ヤマザクラ、コアウチワカエデ、ブナ、ハウチワカエデなどの広葉樹を、種から育てている畑です。



これは植木用のクロマツです。植えてから6、7年のもので、人の背丈より少し高いです。

## 見学先2 松川浦防災林の再生事業

～希少生物の保護区域としての沼地を復元

松川浦大洲地区の県の海岸林は、震災で松林や県立自然の家施設の施設などがすべて流されてしまいました。

県は、防災林としての再生計画検討の中で専門家や市民団体の参加する希少種検討会議を設け、そこでの議論から、松川浦に生息する希少生物の保護区域を定めて湿地を回復するための計画変更を行いました。

見学会では、これについて事業主体である県の担当者、福島大学の黒沢先生、自然保護団体の代表に現地でお話を伺いました。

### 希少生物の保護区域

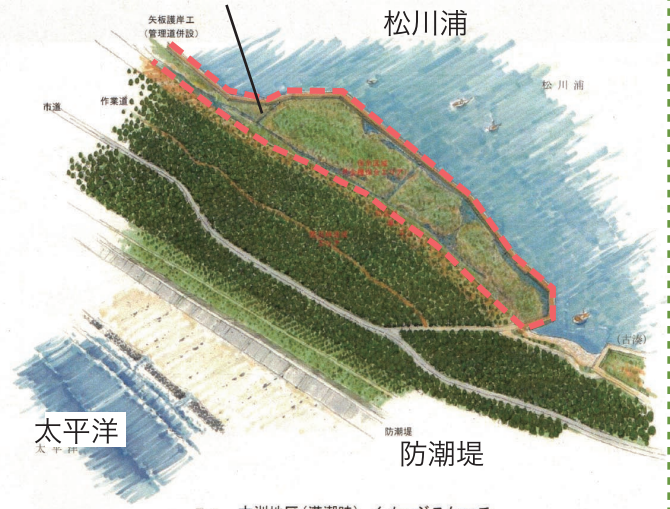


図 4.5 大洲地区(満潮時) イメージスケッチ



### ■福島県相双農林事務所の成井さんのお話

当初、県では全面的に保安林を復旧する計画でしたが、希少種検討会議で専門家からご意見をいただき、工事で手をつけない保護区域を設けることにしました。ここは地下水位が高いので自然に水がでできます。防潮堤に向けて緩やかな斜面にすることで、保全区域の植生が広がる計画です。盛土する部分に生息する希少植物は、移植をして保全します。



### ■福島大学教授の黒沢先生

保安林が失われたら樹林として回復するよう法律で定められていますが、ここは保安林の一部区域を干潟として保全するのは、日本初です。大学では県に協力して定期的にモニタリングの調査をしながら、いい湿地に戻せるよう提案を出したりしています。福島県は、他県に比べ環境保全や住民参加が進んでいます。防潮堤の整備なども時間がかかるように見えますが、皆で丁寧に考えているからだと思います。



### ■NPO 法人はげっ子倶楽部代表の新妻さんのお話

2000年から松川浦の自然保護の活動に取り組んでいます。震災前は、松川浦のガイドブック「まるごと松川浦」作成などにも取り組みました。震災後は、復興事業について生態系保全の視点から意見を言っています。マツ林の管理については、農薬散布などはお金も危険も増えますから必要最小限にすることや、植林の工夫をすることが大事だと思います。



工事の中で、貴重種(シバナ)のまわりに杭を立てて守っているようです。



はげっ子倶楽部が出版した 松川浦のガイドブック。



県立自然の家のグラウンド跡。地下水位が高く、地震で地盤沈下したこともあり、自然に水たまりができる。

# 第1回 きらきら広場

現地ルポ



開催日：6月1日 9時～13時  
 会場：久之浜震災復興土地区画整理地内  
 主催：久之浜町商工会青年部  
 防災緑地アンケート実施：  
 福島県いわき建設事務所



晴天の初夏の朝、空地の真ん中に仮設のテントが立てられました。商工会青年部の有志によるお茶と手作りお菓子を食べながら話しのできるカフェ、父の日のプレゼントに缶バッジをつくるコーナー。いわき建設事務所による防災緑地アンケートコーナーもありました。朝一番に通りにかかった中学生のグループからはじまり、ずっとお客さんがきれずに合計で約120名の方が参加してくださいました。きらきら広場は、6月～11月まで月一回、みんなで作って楽しむ企画を予定しています。どうぞお楽しみに！

青年部のお姉さんと缶バッジづくり



## 「あなたは、防災緑地でどんなことをしてみたいですか？」アンケート



熟年グループも真剣に投票しました



中学生もいろいろな夢をふくらませました。

小さい子もメッセージを書きました。



県では、防災緑地でやりたいことのアンケートを実施しました。この緑地でやりたいことの8つの例の中から好きなものを2つ選んでもらいました。

### やりたいこと・あるといいもの（得票順）

- ・（毎日）海を眺めながら、ゆっくりと散歩（31票）
- ・子どもが走り回って思いきり遊べる木立（29票）
- ・果実や実のなる木を植えて、収穫体験やジュースづくり（18票）
- ・まちからの景色を大切に考え、林の縁に花木を植えたい（16票）
- ・家族や友達とお弁当をもってピクニック（15票）
- ・ジョギングや健康遊具を使って軽スポーツ（15票）
- ・野外音楽会やアート展示会（14票）
- ・野鳥がたくさんやって来る林で自然観察（10票）

### （なんでも自由に書いてください）

つり（4人）／ライブ会場がほしい（3人）／バーベキュー（2人）  
 ／貝がら遊び（2人）／遊具（2人）／自転車に乗りたい（2人）  
 ／広い公園／菜の花ロード／ガーデン／動物／ウッドデッキのある  
 カフェ／いろいろな木を植えるべき／店が欲しい／道の駅／他



【お問い合わせ先】

福島県いわき建設事務所

☎ 0246 - 35 - 6075(石倉、菅野)